小・中学校再編にかかる地区意見交換会（蒲江会場）

１ 日時　　令和８年１０月２０日（火）　１９時～２０時５分

２ 場所　　蒲江地域コミュニティセンター

３ 参加者　　９人

４ 事務局　　都留教育長、神崎教育部長、御手洗教育総務課長、吉田学校教育課長
　　教育総務課職員　４人、学校教育課職員　２人

５ 次第

（１）開会

（２）教育長あいさつ

（３）教育部長あいさつ

（４）佐伯市立小・中学校再編（案）について
- 今回の説明会の趣旨とこれまでの経過
- 小・中学生の現状と今後の見通し
- 学校の再編に関するアンケート調査結果について
- 学校再編することのメリット・デメリット
- 適正な学校規模の考え方
- 小・中学校再編（案）
- 中学校再編後の学校規模
- 小学校再編後の学校規模
- 小・中学校再編までのスケジュール案

資料を基に上記の項目等について説明

（５）質疑応答

（６）意見交換

（７）閉会

6 質疑応答・意見交換の内容

（1）質疑応答

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	発言内容
参加者	本匠小学校および本匠中学校について、小規模特認校として存続した場合、地元の子どもたちはそのまま本匠小・中学校に通うことができるのでしょうか。小規模特認校は市外や他校区から小規模教育を希望する児童・生徒を受け入れる制度であり、地元の子どもは通えないという話を伺いましたので、その点を確認したいです。また、児童・生徒数の推移資料を見ますと、本匠の子どもたちは統合小・中学校Ⅲの人数に含まれているように見受けられますが、実際の進路や通学の選択肢についてご説明をお願いします。
事務局	本匠小・中学校に通学している児童・生徒につきましては、小規模特認校として存続した後も、指定校としては統合小・中学校Ⅲとなりますが、本匠小・中学校に残ることも、統合先の学校へ進学することも、どちらでも選択できる形を検討しております。
参加者	令和 5 年 5 月に学校再編の基本方針が策定されたとのことですが、それまでの経過が市民には見えにくく感じられます。平成 17 年の市町村合併当時にも学校再編の方向性について議論がありましたが、その後具体化されないまま時間が経過した印象を受けております。特に令和 5 年に方針を定めてから、実際の開校が令和 12 年度や 14 年度になるなど、なぜこれほど長い期間を要するのか疑問に思っております。これまでの経緯と、統合までに時間をかける理由について教えていただけますでしょうか。
事務局	小中一貫教育の導入が検討された平成 17 年頃は、すでに小・中学生の減少が進み始めていました。そうした中、旧町村地域の学校を存続させたいという思いから、東雲・直川・本匠・大島・宇目の 5 地域で小中一貫教育がスタートしました（蒲江地域はその後導入）。導入後は、若いファミリー層の定住促進と教育の充実を目指し、学力向上などの成果も見られました。また、小中一貫教育に魅力を感じ、移住してくる子育て世帯もありました。 適正規模の基本方針は令和 3 年度・4 年度に協議会を重ね、令和 5 年に基本

	方針を策定いたしました。開校時期の理由につきましては、児童・生徒や保護者の心の準備期間の確保、新学習指導要領への対応、通学支援や受入校の施設整備などを段階的かつ丁寧に進めるため、準備期間が必要であると判断したためです。
参加者	少子化が急速に進む現状は待ったなしの状況であり、子どもたちの教育環境を第一に考えるのであれば、もっと早い段階から危機感を持って再編に取り組むべきではなかったかと残念に思っております。
参加者	現在の中学校の部活動の状況について教えてください。蒲江地区では生徒数の減少により部活動の選択肢が限られる中、他地域のスポーツクラブに参加する場合、交通費などの負担が生じます。学校の管轄外のクラブに参加する生徒に対し、市として交通費等の補助制度を設ける考えはありますか。
事務局	中学校の部活動につきましては、平日は学校部活動として教員が指導を行い、休日は地域のクラブ活動等へ移行する取組を進めております。蒲江地区をはじめとする遠方から市街地のクラブ等に参加する場合の送迎や交通費負担につきましては、まさに重要な懸案事項として認識しております。現在は保護者の皆様のご負担が大きい状況となっておりますので、今後どのような支援や補助が可能か、地域の皆様とともに検討を進めてまいります。
参加者	畑野浦地区では校舎等が解体されて、更地となった敷地が、十分に活用されないまま雑草が生い茂る状態になりつつあります。地域の中心部にある広い敷地がそのような状態になるのは大変残念であり、教育委員会による適切な管理や、今後の利活用について検討していただきたいと考えています。 また、子どもたちの通学時のバス停環境についても改善をお願いしたいです。雨や風の強い日には、子どもたちが雨に濡れながらバスを待たなければならない状況があります。子どもたちが安心して通学できるよう、雨風をしのげる待合スペースの設置など、主要なバス停の環境整備についても検討していただきたいと思います。
事務局	学校跡地の管理につきましては、市役所の財産管理部署とも連携し、定期的な除草や適切な環境維持に努めてまいります。また跡地の利活用につきましても、地域での活用などを含めて検討してまいります。 通学バス停の待合環境につきましては、道路状況や運行事業者、地元地区との協議が必要となりますが、子どもたちが安全かつ快適に通学できるよう、

	いただいたご要望を踏まえて検討してまいります。

（2）意見交換

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	発言内容
参加者	統合につきましては児童・生徒数の現状を鑑みるとやむを得ない面もあると感じておりますが、実際に蒲江地区が統合を進めた際にも、スクールバスの運行や登下校時の防災・安全面など、多くの課題や保護者の不安が生じました。保護者が抱く不安な思いを丁寧にすくい上げながら進めていただきたいです。また、蒲江地区ではクラス替えがなく人間関係が固定化しやすいため、高学年時などに佐伯市内の同級生が一堂に会する合同学習など、市内全体の子どもたちと交流できる体験の機会を設けていただきたいです。
参加者	本匠小・中学校を小規模特認校として存続させる案について疑問を感じております。他の周辺地域が市街地校へ統廃合される中で、なぜ本匠だけを特認校として残すのでしょうか。長年にわたり小規模であった地域であり、市内中心部からの距離も極端に遠いわけではありません。
事務局	本匠小・中学校の特認校指定につきましては、地域や学校運営協議会から小規模校ならではの特色ある教育を継続したいという強い要望をいただいた経緯がございます。指定にあたっては、①市内中心部からの通学が可能な地理的条件、②お茶や俳句、自然の学習など地域資源を活かした特色ある教育の実践、③区域外からの児童・生徒を受け入れる態勢が整っていること、の 3 つの基準を満たしていることを確認しております。現在、小学校で 10 人以上、中学校でも複数の生徒が区域外から通学しており、少人数教育を望むニーズに応えております。そのため、今回の再編案においても特色ある学校として存続させる方針としております。
参加者	学校現場が部活動を抱え込んでいるように見受けられますが、他自治体の好事例では、特定種目に限定せず多様なスポーツを体験できる地域クラブの取組も行われています。中学校部活動だけでなく、小学校のスポーツ少年団な

	どについても、活動時間や練習環境、安全面、指導体制などを含め、子どもたちの健全な成長に配慮した運営を検討する必要があります。 また、本日の説明会に教育総務課や学校教育課だけでなく、社会教育やスポーツ振興を担当する部署が出席していない点にも疑問を感じます。学校再編は単なる学校教育の枠内だけで考えるのではなく、社会体育や社会教育、生涯学習の観点も含め、地域全体で総合的に検討する必要があると考えます。
参加者	蒲江翔南学園では平成 29 年に小学校 6 校 1 分校と中学校が統合し、今年で 10 年目を迎えております。この 10 年間で児童・生徒数は 100 人以上減少し、急激な少子化を実感しております。統合にあたっては、地域との結びつきを保つ「ふるさと学習」など地域協働の取組を大切にしてまいりました。 統合後の最大の課題はスクールバスの運行管理です。現在 4 台のバスが 3 つの時間帯に分かれて運行しており、ダイヤの調整や安全管理に教頭をはじめ教職員が多大な労力を費やしております。今後再編を進める他地域においても、通学バスの運行は極めて重要な課題となります。蒲江翔南学園で培ったスクールバス運行や地域連携のノウハウを、今後の再編計画にぜひ役立てていただきたいと考えております。